

心理学 ミュージアム



立命館大学文学部 特別任用教授
藤 健一 (ふじ けんいち)

Profile—

立命館大学文学部助手, 助教授を経て教授, 2015年4月, 立命館大学名誉教授。専門は実験心理学・実験的行動分析学・心理学実験装置史。著訳書は『パピーニの比較心理学：行動の進化と発達』(分担訳, 北大路書房) など。

心理学ミュージアム歴史館が「所蔵」する 古典的機器類の実体展示に向けて

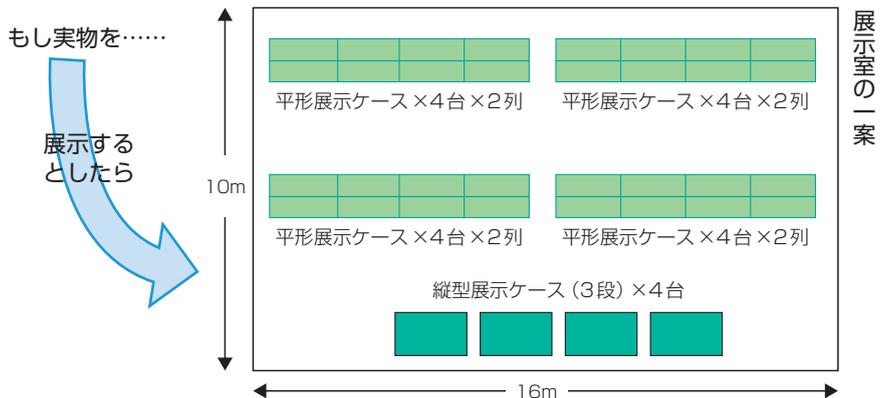
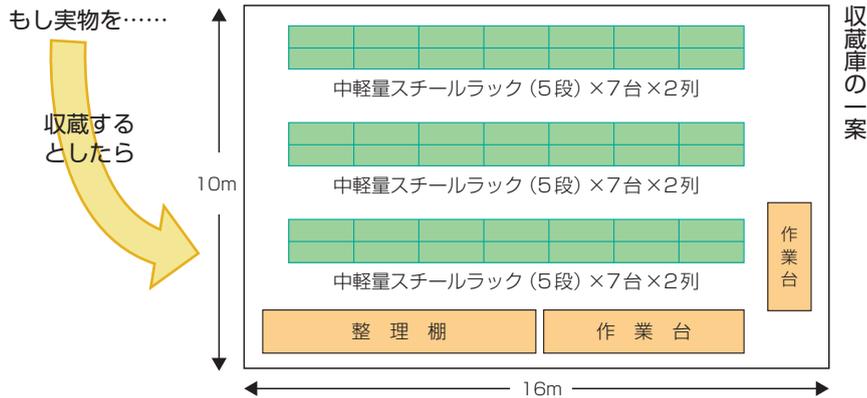


図 「心理学ミュージアム」の歴史館古典的機器を、仮に実体として収納あるいは展示するとした場合、考えられる実体としての収蔵庫と展示室のひとつのプラン (図の上の画像の出典は、日本心理学会ホームページ https://psychmuseum.jp/device_top/)

日本心理学会の仮想博物館「心理学ミュージアム歴史館古典的機器」は、国内各大学に保管されている古典的機器類405件をデジタルデータの型式で「所蔵」しています。現在の内訳は、関西学院大学38件、京都大学59件、立命館大学53件、東京大学23件、東北大学88件、新潟大学83件、そして金沢大学が61件です。このデータ収集作業が進むにつれて、日本の心理学においてもいつかはデジタルデータだけではなく、拠点化した「機器そのもの」の収蔵・保管が必要ではないか、という声が上がることになりました。しかし、常に問題となったのは、収納保管スペースを確保できるか否かでした。このような課題を検討するのであれば、収納に必要な面積のデータが欠かせないはずですが、しかしながら、今までそれが試算されたことはありませんでした。

そこで、本稿では以下のような試算をしてみました。つまり、①仮想博物館「心理学ミュージアム」がデジタルデータとして「所蔵」しているこれらの「歴史館の古典的機器」が、仮に実体として「心理学ミュージアム」に収蔵されるとしたならば、いったいどのくらいの広さの実体としての収蔵庫（物置）が必要か、②さらに「心理学ミュージアム」のデジタルデータの古典的機器を実体展示するとしたならば、どのような展示室が考えられるか、このふたつについて架空のアイデアを図に示してみました。

仮想博物館「心理学ミュージアム歴史館古典的機器」を収蔵庫として実体化したプラン

〔試算の前提条件〕①収蔵品は、「心理学ミュージアム歴史館古典的機器」の収蔵件数405件（2019年10月現在）とする。②収蔵庫は、中量スチールラック（5段）に並べて収納する。③機器1件についての収蔵スペースは、大まかに考えて1台が40cm幅に収まるものとする。④中量スチールラックは棚板5枚（5段）で幅1250mmとして、作業のしやすさを考慮して棚板5段のうち3段を利用する。

〔試算〕①収蔵品を1列に並べたときの総延長 $405 \times 40\text{cm} = 16200\text{cm} = 162\text{m}$ となる。②1台のラックの3段を使うので、 $162\text{m} \div 3\text{段} = 54\text{m}$ となる。③必要なスチールラック数は、 $54\text{m} \div 1.25\text{m} \approx 43$ 台となる。④スチールラック7台を1列として、2列を向かい合わせに組んで1群として計3群配置にまとめる。これを、図の左下に示してみました。おおよそ10m×16mの広さの部屋があれば、壁まわりに作業台や整理棚を配置することもできます。仮に「心理学ミュージアム」にあるデジタルデータの機器類を全て実体物として保管したなら、この程度のスペースがあればよい、ということです。一応、この収蔵庫の収蔵能力余裕として、あと200件ほど収蔵品が増えても、対応できるように設計してあります（収蔵量の安全率1.50）。200件というと、上述の東北大学と新潟大学規模の件数の装置類を追加しても、そのまま棚に収納できるということです。

仮想博物館「心理学ミュージアム歴史館古典的機器」を展示室として実体化したプラン

〔試算の前提条件〕①展示品は、収蔵品（405件）のうちの1/3として、定期的に入れ替えるものとする。②展示品は、平型展示ケース（1段 幅1250mm）を使用して、見やすい展示を心がける。一部に、3段縦型展示ケースを用いる。③展示室スペースは、機器のデモンストレーションや説明ガイドなどのための空間的余裕を考慮する。④収蔵庫は別室とする。これを、図の右下に示してみました。

〔試算〕①展示品を1列に並べたときの総延長 $135 \times 40\text{cm} = 5400\text{cm} = 54\text{m}$ となる。②1台の平型展示ケースに3件展示できるものとする。③ $135 \div 3 = 45$ 台となるので、1段展示の平型展示ケースを32台、3段展示の縦型展示ケースを4台とすると、展示件数は平型で $32 \times 3 = 96$ 件、縦型で $4 \times 3 \times 3 = 36$ 件となり、計135件となります。展示室でのケースの配置間隔は、見学者の移動スペースを確保するため、2mと広めにとっておりあります。展示室の広さは、10m×16mとなりました。

ロンドン科学博物館のような博物館は、科学と工学における多様な領域の織りなす歴史的関係を、「もの」を見学者に提示することによって、その理解を深めようとしています。心理学の博物館を設置するとしたなら、心理学の歴史（古典的機器もその中に含まれます）は重要な展示の一面を占めることになり、そこでも「実体としての機器」が重要な役割を果たすことになるでしょう。日本心理学会は2027年に創立100周年を迎えます。実体としての「心理学博物館」を構想するよい機会ではないでしょうか。



The Science Museum,
London
(ロンドン科学博物館)